

## デジタル時代、注目される新商品は？

### 韓国特許庁、新規複合商品の取引実態調査

超現実的世界と呼ばれる拡張仮想世界（メタバース）関連産業が急浮上している。

8月18日、韓国特許庁によると、「新規複合商品取引実態」調査の結果、新型コロナウイルス感染症（コロナ19）および情報通信産業技術の発展に支えられ、急速に成長している3次元仮想世界プラットフォーム「メタバース」関連の出願が今年初めて登場した。

全体で18件の商標が出願されており、「メタバースゲーム用ソフトウェア、メタバースコンテンツ提供用ソフトウェア、メタバースソフトウェアの設計および開発業」などの商品指定して審査を待っている。

また、製造業にデジタルを融合させた多機能化した商品も大幅に増えた。

スマートフォンアプリケーションを介して遠隔制御したり、分析情報を提供する機能が搭載された「自動カーテン制御装置、スマート卵保管箱、スマート体成分検査用体重計、スマート縄跳び用縄」などがこれに該当する。

コロナ19に対処するための「殺菌機能が内蔵されたスマートフォン無線充電器、コロナの自己検査キット、浄水機能水筒、空気清浄扇風機」などの衛生・清潔製品も目立ち、デジタル機能が搭載されたペット商品（ペット用キューブカメラ、ペットの位置追跡ネックレス、ペット自動給食機）も多数含まれていた。

韓国特許庁商標デザイン審査局長は、「仮想・拡張現実技術の発達により、メタバースプラットフォームなど、さまざまな超連結新商品がグローバル市場をリードするだろう」とし「技術分野における先導企業など、韓国の出願人が新商品に対する商標権の早期獲得に積極的な関心を持ってほしい」と述べた。 ■